

- 問1 日本の歴史上の出来事を整理した略年表において、古墳時代の大和政権による統一が進んだ後、平安時代の荘園の形成よりも前の時期に位置づけられる出来事として正しいものはどれですか。(2018年 静岡公立入試 類似)
1. 天智天皇の死後の後継争いに勝利した天武天皇が即位した。
  2. 平清盛が武士として初めて太政大臣の地位に就いた。
  3. 北条泰時によって武士の慣習をまとめた御成敗式目定められた。
  4. 鎖国の体制が固まり、長崎でのみオランダや中国との貿易が行われた。
- 問2 7世紀後半、百済の滅亡と白村江の戦いで敗北という対外的な危機を受け、唐・新羅連合軍による日本への侵攻に備えて、九州北部の沿岸などの要所に配置された兵士を何と呼びますか。(2020年 広島公立入試 類似)
1. 衛士
  2. 防人
  3. 健児
  4. 武士
- 問3 推古天皇の治世における出来事として、聖徳太子や蘇我馬子とともに進められた政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2026年 静岡公立入試 類似)
1. 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣
  2. 大宝律令の完成、平城京への遷都、和同開珎の鑄造
  3. 公地公民の制、班田収授法の実施、防人の設置
  4. 検地の実地、刀狩令の公布、身分統制令の発令
- 問4 7世紀後半、日本が対馬や九州、瀬戸内海沿岸などに「山城」を築き、大規模な国防強化を行うこととなった直接の理由として正しいものはどれですか。(2016年 秋田県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。
  2. 蝦夷(えみし)との戦いが激化し、東北地方の支配権を確立するため。
  3. 平将門の乱や藤原純友の乱が発生し、地方の治安が急速に悪化したため。
  4. 遣唐使を廃止したことで唐との国交が断絶し、緊張状態が高まったため。
- 問5 飛鳥時代に推古天皇の摂政であった聖徳太子(厩戸王)が、役人の政治に対する心がまえを説くために制定した法は何ですか。「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗となせ」という、人々の和を尊重し、争わないことを第一に掲げたものを選びなさい。(2022年 沖縄公立入試 類似)
1. 十七条の憲法
  2. 五箇条の御誓文
  3. 御成敗式目
  4. 武家諸法度
- 問6 西暦による歴史の時代区分において、西暦601年から西暦700年までの100年間を指す名称として正しいものを選びなさい。(2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 5世紀
  2. 6世紀
  3. 7世紀
  4. 8世紀
- 問7 飛鳥時代の出来事のうち、中大兄皇子(天智天皇)らによる大化の改新(645年)よりも前に起こった出来事はどれですか。(2026年 秋田公立入試 類似)
1. 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された
  2. 天武天皇が壬申の乱に勝利して実権を握った
  3. 桓武天皇によって平安京への遷都が行われた
  4. 正倉院に納められているような精緻な戸籍が全国で作られた
- 問8 小野妹子が中国の王朝である隋へ派遣された際、聖徳太子は「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」という内容の国書を持たせました。この記述から読み取れる、当時の日本が隋に対してどのような外交姿勢をとろうとしていたか、最も適切なものを選びなさい。(2021年 三重公立入試 類似)
1. 隋の皇帝に従属し、周辺諸国の支配権を認めてもらう姿勢
  2. 隋の皇帝に対して臣下としての礼を尽くし、称号を求める姿勢
  3. 隋と対等な立場での国交を結び、独自の地位を築こうとする姿勢
  4. 隋の文化を拒絶し、日本独自の鎖国体制を築こうとする姿勢
- 問9 古代日本の国家形成の過程において、天智天皇の後継をめぐる混乱を経て、中央集権的な統治が強化されたことを示す歴史上の出来事はどれか。(2018年 岡山公立入試 類似)
1. 壬申の乱
  2. 白村江の戦い
  3. 承久の乱
  4. 保元の乱
- 問10 飛鳥文化を象徴する法隆寺に関する記述として、歴史的背景を含めて説明したものとして最も適切なものを選びなさい。(2024年 三重公立入試 類似)
1. 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。
  2. 聖武天皇が国ごとに建立を命じた国分寺の総本山として、国家の保護を受けて発展した。
  3. 奥州藤原氏によって東北地方に建てられ、浄土信仰に基づく金色の建築様式が特徴である。
  4. 最澄が比叡山に開いた天台宗の拠点であり、平安時代以降の仏教の発展に大きく寄与した。
- 問11 7世紀後半、天智天皇が亡くなった後に発生した「壬申の乱」の直接的な原因として、最も適切な説明はどれですか。(2025年 愛知公立入試 類似)
1. 天皇の死後、その皇位継承をめぐる親族や有力な一族の間で生じた対立
  2. 地方で武士団が組織できるほどに成長し、土地の支配権をめぐる朝廷に反旗を翻した
  3. 重い税や労役を課しながらも人々を救おうとしない役人の政治に対し、農民が結集して抵抗したこと
  4. 大陸との国交を開きようとする勢力と、積極的に文化を取り入れようとする勢力の外交方針の対立
- 問12 7世紀中ごろ、中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒して始めた政治改革(大化の改新)ののち、即位して天智天皇となった彼の事績について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2018年 埼玉公立入試 類似)
1. 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。
  2. 聖徳太子の摂政として冠位十二階や十七条の憲法を制定し、仏教を厚く保護して法隆寺などの寺院を建立した。
  3. 天武天皇のあとを継ぎ、律令国家の完成を目指して平城京に都を移し、和同開珎などの貨幣を鑄造させた。
  4. 壬申の乱で中大兄皇子を破って即位し、強力な権力を持って飛鳥浄御原宮で新しい政治の仕組みを整えた。
- 問13 7世紀後半に起こった「壬申の乱」の経緯とその結果について述べた文として、正しいものはどれか。名称や関係性に注目して選びなさい。(2024年 高知公立入試 類似)
1. 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。
  2. 中臣鎌足が中大兄皇子と協力して蘇我氏を倒し、大化の改新を開始した。
  3. 聖徳太子が推古天皇の摂政となり、憲法十七条や冠位十二階を制定した。
  4. 桓武天皇が新しい政治を行うため、都を平城京から平安京へと移した。
- 問14 6世紀後半の飛鳥時代において、大陸から伝わった仏教の受容を積極的に進めた蘇我氏と、日本の伝統的な神を重んじてこれに反対し、最終的に軍事衝突の末に滅ぼされた有力な豪族はどこか。(2025年 岡山公立入試 類似)
1. 物部氏
  2. 山名氏
  3. 中臣氏
  4. 大伴氏

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 天智天皇の死後の後継争いに勝利した天武天皇が即位した。	日本の歴史の大きな流れにおいて、飛鳥時代は古墳時代と奈良・平安時代の間に位置します。この時期に起きた重要な出来事が壬申の乱であり、その結果としての天武天皇の即位です。略年表の順序をたどると、古墳時代の統一、飛鳥時代の天武天皇即位、平安時代の荘園形成や平清盛の台頭という流れになります。平清盛や御成敗式目、鎖国などはそれよりも後の時代の出来事です。
問2	答え 2 防人	白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れた日本は、国土防衛を強化するために九州北部に「防人」を置きました。主に東国の農民が徴集され、3年間の任期で国境の警備にあたりましたが、交通費や食料が自己負担とされるなど、その生活は非常に苦しいものでした。万葉集には、防人やその家族の悲しみを詠んだ「防人歌」が残されています。
問3	答え 1 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣	推古天皇・聖徳太子・蘇我馬子の協力体制下では、才能ある人材を登用する「冠位十二階」（603年）、役人の心得を説いた「十七条の憲法」（604年）、そして対等な外交を目指した「遣隋使」の派遣が行われました。これらはいずれも、飛鳥時代における国家基盤を強化するための重要な事例です。
問4	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、日本本土への侵攻が懸念されたため。	百済の復興を支援するために朝鮮半島へ送られた日本軍が、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗したことが発端です。この敗北により、当時の指導者であった中大兄皇子は、勝利に乗じた唐などが日本へ攻めてくることを恐れ、国家の存亡をかけて防人や山城による防衛線を作り上げました。
問5	答え 1 十七条の憲法	聖徳太子は、冠位十二階の制定とともに「十七条の憲法」を定め、天皇を中心とする中央集権国家の基盤を整えようとしていました。この法は現在の憲法とは異なり、役人が守るべき道徳的な訓戒としての性格が強く、特に第一条で説かれた「和」の精神は、豪族間の争いを鎮める意図がありました。
問6	答え 3 7世紀	歴史上の世紀の数え方は、1世紀を1年から100年までと定義します。これに従うと、601年から700年までの期間は7番目の100年間となるため、7世紀と呼ばれます。西暦の百の位の数字に1を足すと、その年が何世紀かがわかります。
問7	答え 1 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された	遣隋使の派遣は607年に行われた出来事であり、645年の大化の改新よりも前です。壬申の乱（672年）や、721年の正倉院文書に見られるような律令制度に基づく戸籍の整備、そして794年の平安京遷都はすべて大化の改新よりも後の出来事です。
問8	答え 3 隋と対等な立場での国交を結び、独自の地位を築こうとする姿勢	聖徳太子は、当時の中国を中心とした国際秩序（冊封体制）に従うのではなく、日本を「日出づる処」、隋を「日没する処」と表現し、双方の君主を「天子」と呼ぶことで、対等な立場で外交を行おうとしました。これには、隋の力を背景にせずとも自立した国家であることを示す意図がありました。
問9	答え 1 壬申の乱	天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を倒した672年の壬申の乱が正解です。この勝利によって大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇の称号や「日本」という国号を使い始めるなど、律令国家としての骨組みを固めていきました。
問10	答え 1 世界最古の木造建築として知られ、大陸の技術を取り入れながら日本の仏教文化の基盤を築いた。	法隆寺は7世紀初め、聖徳太子（厩戸皇子）の指導のもとで建立され、日本における初期の仏教興隆を象徴する存在です。他の選択肢は、東大寺（奈良時代・聖武天皇）、中尊寺（平安末期・藤原氏）、延暦寺（平安初期・最澄）に関する説明であり、時代背景や建立の主体が異なります。
問11	答え 1 天皇の死後、その皇位継承をめぐる親族や有力な一族の間で生じた対立	天智天皇の死後、その弟である大海人皇子と、天皇の子である大友皇子が、次の皇位をめぐる争ったことがこの乱の本質です。当時はまだ皇位継承のルールが明確に確立されておらず、一族間で深刻な対立を招く背景がありました。この乱に勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、天皇中心の中央集権体制をさらに強化していくことになりました。他の選択肢にある武士の台頭や農民一揆などは、より後世の時代に見られる特徴です。
問12	答え 1 唐や新羅による侵攻に備えて、西日本の要所に山城を築き、内陸の大津宮に都を移したほか、日本初の全国的な戸籍を作成した。	中大兄皇子（天智天皇）は、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、対外防衛を最優先課題としました。そのため、博多湾を見下ろす大宰府に水城を、また西日本各地に朝鮮式山城を築き、防人を配置しました。あわせて都を近江の大津宮へ移し、670年には日本初の全国的な戸籍である「庚午年籍」を作成して、徴兵や徴税の基盤を整え、中央集権化を進めました。他の選択肢は、聖徳太子、元明天皇、天武天皇の事績に関する記述です。
問13	答え 1 天智天皇の弟である大海人皇子が、天智天皇の子である大友皇子を破って即位した。	天智天皇の死後、後継者をめぐって弟の大海人皇子と子の大友皇子の間で武力衝突が起こりました。これが壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇となり、地方の豪族を従えて中央集権化を強めました。選択肢にある大化の改新や、聖徳太子の政策、平安京への遷都は、それぞれ異なる時期や人物による出来事です。
問14	答え 1 物部氏	古墳時代から飛鳥時代にかけて、政治の実権をめぐり有力な豪族の間で激しい争いが起こりました。仏教を新しい統治の道具として取り入れようとした蘇我氏に対し、軍事や刑罰を司り伝統を重んじた物部氏は強く反対しました。この対立は「崇仏論争」と呼ばれ、最終的に蘇我馬子が物部守屋を滅ぼしたことで、日本における仏教受容の流れが決定的となりました。